

地域医療充実へ新拠点

松波総合病院「北館」が完成 笠松町

羽島郡笠松町田代、松波総合病院の新館「ノースウイング（北館）」が完成した。本館の急性期医療部門を新館に移して、最新鋭の医療機器を導入してヘリポートも整備。救急機能を強化し、岐阜南部地域の中核病院として医療体制を充実した。開館は7月22日の予定。18日、完成記念式典と内覧会が行われた。

（大賀由貴子）

最新機器を導入、救急強化

新館は鉄筋7階建て、延べ約1万8千平方メートル。病床は262床、手術室は8室あり、うち1室に放射線装置を使ったカテーテル治療や政財界、病院関係者

約500人が出席。松波英寿理事長は「最高の皆さんにささげた環境が整った。スタッフ」とあいさつした。『チーム医療』を実現手術室や一般病棟を見学した。全ての工事が完了するのは来年秋で、病床数は計501床となる予定。



7月22日に開館する新館のノースウイング＝同